

# 川崎市公共施設白書（分析編）

## 【令和 5（2023）年度版】

令和 8（2026）年 2 月  
川崎市

## 目次

<b>1章 公共建築物の大分類ごとの過年度比較</b> .....	<b>4</b>
1 延床面積 .....	4
2 年間利用者数.....	5
3 コスト状況（1㎡あたりのコスト状況） .....	6
<b>2章 市民利用施設の分類別過年度比較</b> .....	<b>8</b>
1 延床面積 .....	9
2 年間利用者数.....	12
3 コスト状況（1㎡当たりのコスト状況） .....	15

## 分析編について

分析編は、資産保有の最適化に関する取組の参考となるよう、公共建築物の延床面積、利用状況に焦点を当て、過去5年度分のデータを対比し分析を行っています。第1章では、公共建築物全体が俯瞰できるよう大分類ごとに分析を行い、第2章では、各施設分類の特徴や現状などについて、より分かりやすいものとするため、市民の皆様に馴染みの深い施設（市民利用施設）を抽出し、分類別に分析を行いました（8ページ参照）。

本書の構成イメージ

### 公共建築物全体

公共建築物全体の大分類ごとの過年度比較（第1章）

### 市民利用施設

市民利用施設の分類別過年度比較（第2章）

# 1章 公共建築物の大分類ごとの過年度比較

## 1 延床面積

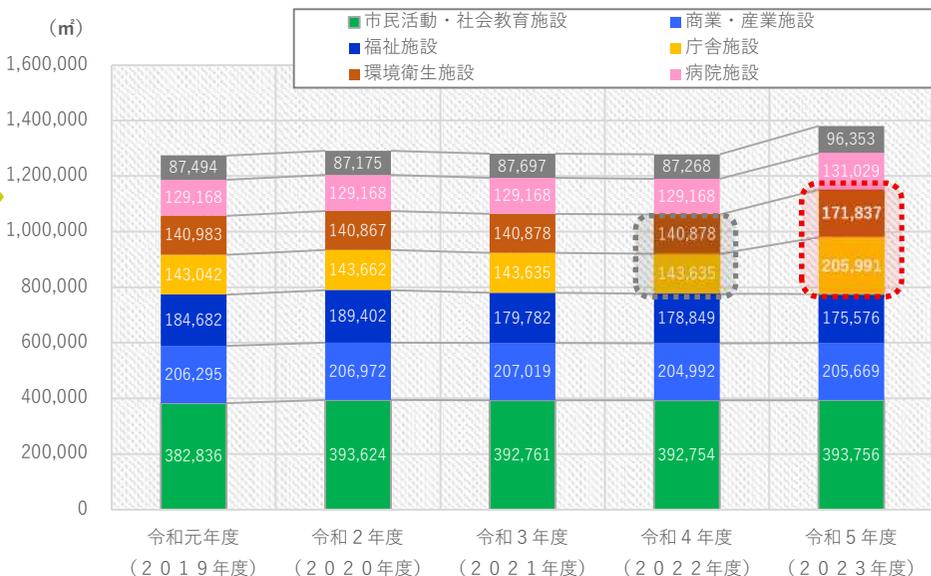
令和4年度と令和5年度を比較すると、施設総量は約2.61%の増加となっています。

- ① 学校施設 学校施設については、概ね横ばいとなっています。
- ② 市営住宅 市営住宅の管理戸数については、「第5次川崎市市営住宅等ストック総合活用計画」に基づき、当面は引き続き維持することとしています。延床面積については、令和4年度に解体した生田市営住宅の建替工事完了により増加となっていますが、過年度からは微減傾向となっています。
- ③ 庁舎等建築物 庁舎等建築物については、本庁舎の完成等により、施設総量が増加となっています。施設分類では、庁舎施設が、本庁舎の完成等により約4割増加しています。環境衛生施設では、清掃処理施設 橋処理センターの完成により、約2割増加となっています。



(注) 借受施設除く

図1 学校施設、市営住宅、庁舎等建築物の延床面積の過年度比較  
(令和6(2024)年3月末時点)

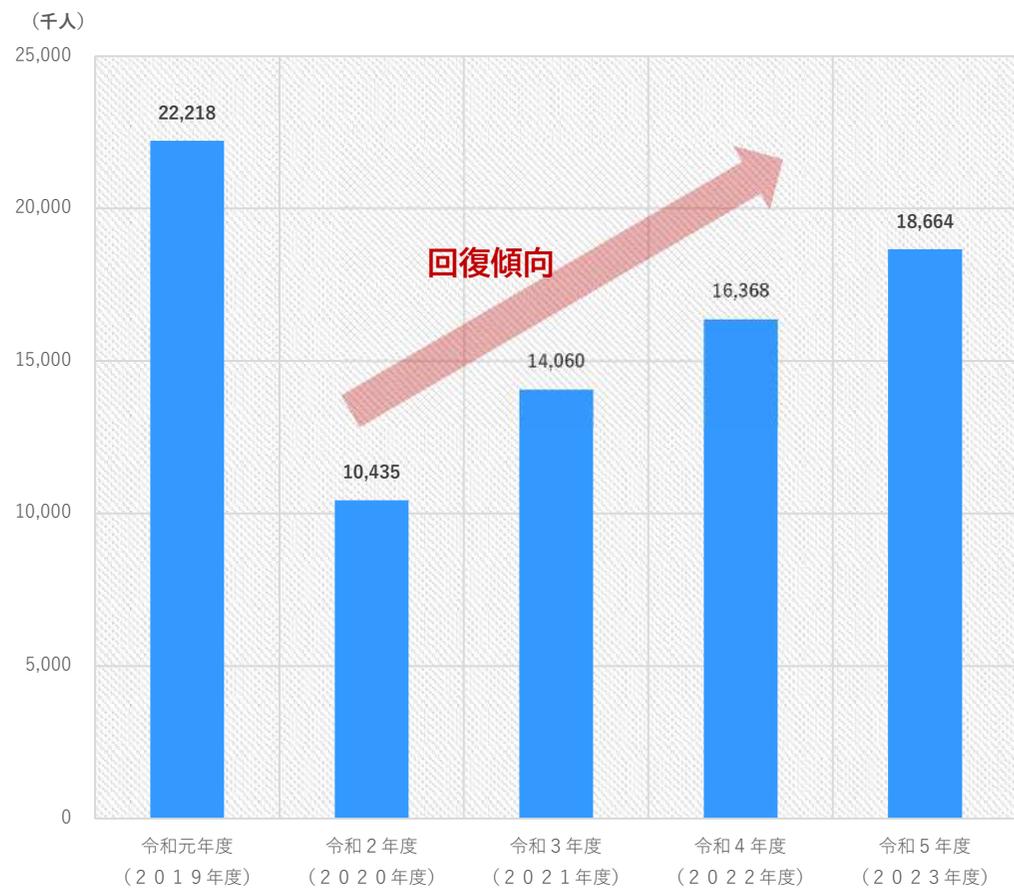


(注) 借受施設除く

図2 庁舎等建築物の大分類別延床面積の過年度比較  
(令和6(2024)年3月末時点)

## 2 年間利用者数

新型コロナウイルス感染症の影響で減少していた施設全体の年間利用者数は、令和3年度、令和4年度に引き続き、令和5年度も回復傾向が見られます。



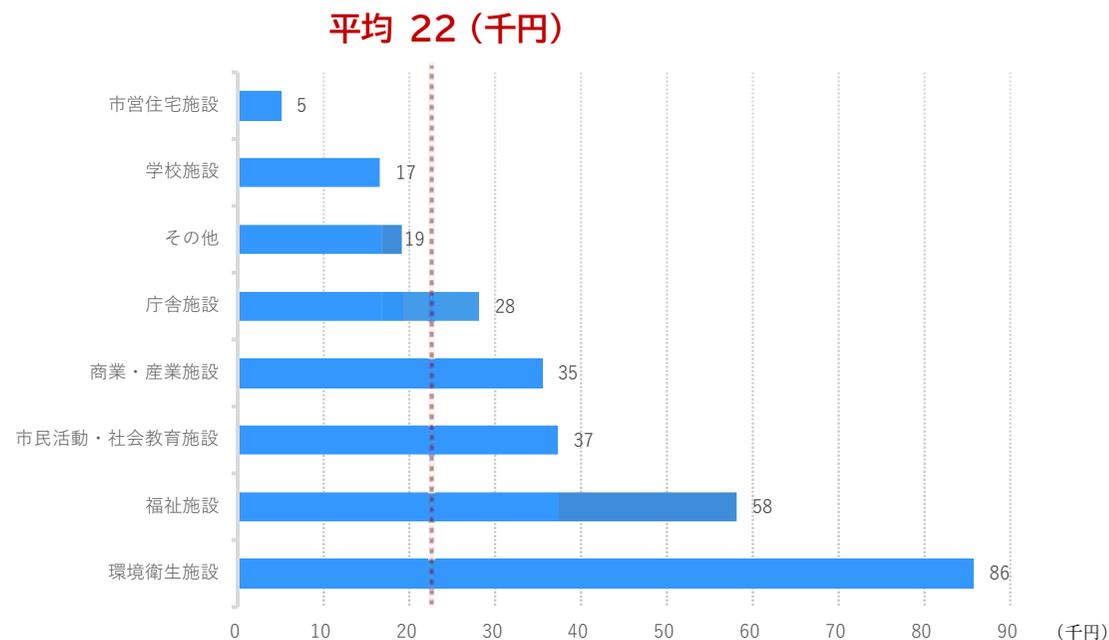
(注) 借受施設除く

図3 年間利用者数

### 3 コスト状況（1㎡あたりのコスト状況）

#### (1) 1㎡あたりのコスト内訳

大分類ごとの1㎡あたりのコスト（維持管理費・事業運営費・減価償却費・指定管理料）の平均は約2万2千円となっています。（解体・新築関連経費、大規模改修費を除く）。施設分類別に見ると「環境衛生施設」が約8万6千円、「商業・産業施設」が約3万5千円となっています。



(注1) 借受施設の賃借料も含む

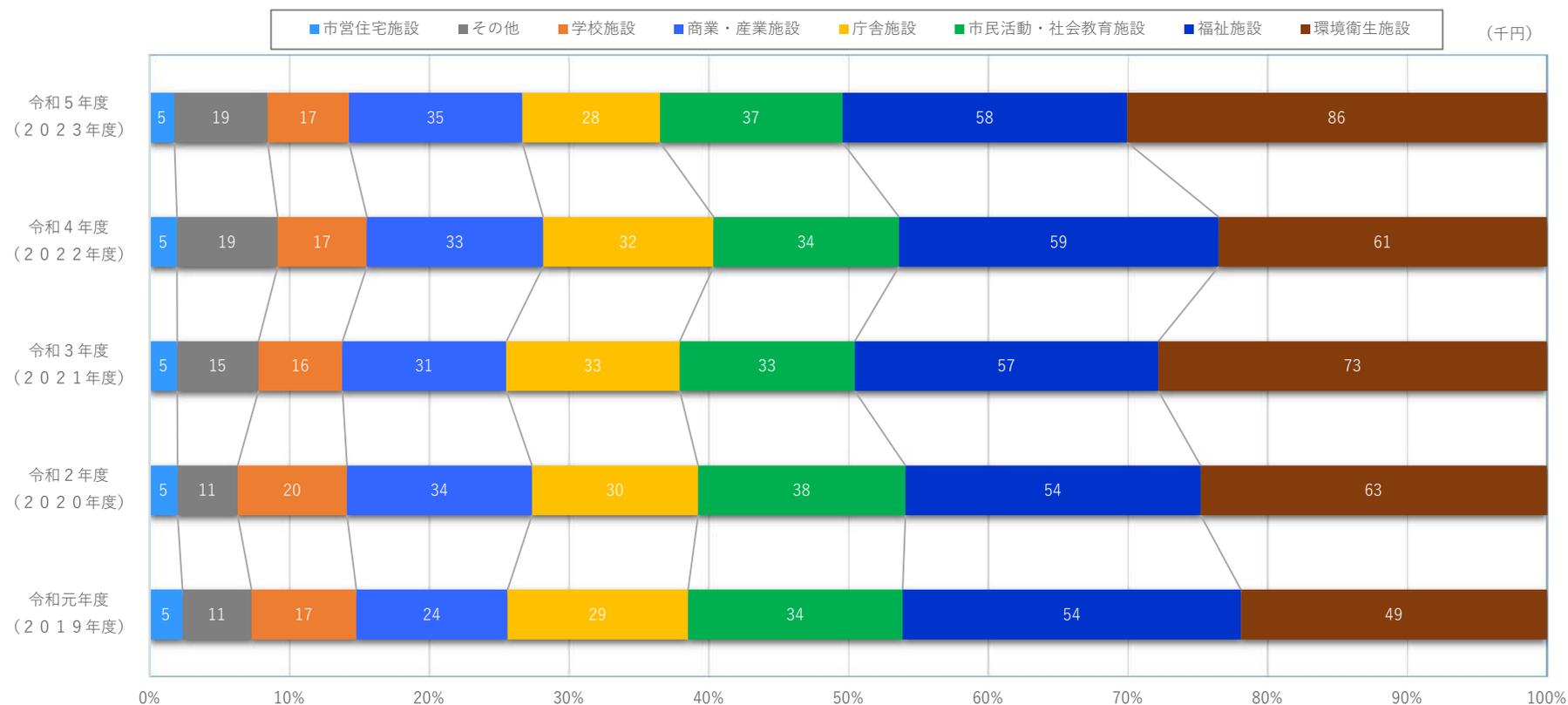
(注2) 解体・新築関連経費、大規模改修費を除く

**図 4 1㎡あたりのコスト内訳**

(令和5(2023)年度決算、企業会計除く)

## (2) 1㎡あたりのコスト分類別過年度比較

大分類ごとに見ると、「環境衛生施設」が約3割、「福祉施設」が約2割、「市民活動・社会教育施設」、「商業・産業施設」、「庁舎施設」がそれぞれ約1割を占めています。



(注1) 借受施設の賃借料も含む

(注2) 解体・新築関連経費、大規模改修費を除く

(注3) グラフ内の数字は1㎡当たりのコスト(千円)

図5 1㎡あたりのコスト分類別過年度比較

(各年度決算、企業会計除く)

## 2章 市民利用施設の分類別過年度比較

本章は、各施設分類の特徴や現状などについて、市民の皆様馴染みの深い以下の施設（市民利用施設）を抽出して分析しました。

表 市民利用施設の分類別施設一覧

大分類	中分類	主な施設名
市民活動・社会教育施設	市民活動施設	市民館、労働会館、総合福祉センター、総合自治会館
	図書館	図書館
	体育施設	スポーツセンター、球技場、プール
	青少年施設	子ども夢パーク、青少年の家、黒川青少年野外活動センター、八ヶ岳少年自然の家
	文化施設	川崎シンフォニーホール、青少年科学館、藤子・F・不二雄ミュージアム
	複合施設	スポーツ・文化総合センター（カルッツかわさき）・川崎市民プラザ
	その他社会教育施設	かわさきエコ暮らし未来館・王禅寺エコ暮らし環境館
商業・産業施設	競輪施設	川崎競輪場
	産業振興施設	川崎エコタウン会館、農業技術支援センター

大分類	中分類	主な施設名
福祉施設	わくわくプラザ	わくわくプラザ
	こども文化センター	こども文化センター
	地域子育て支援センター、児童相談所、その他児童福祉施設	地域子育て支援センター
	老人いこいの家、老人福祉、地域交流センター	老人いこいの家、老人福祉センター
	その他老人福祉施設	かわさき総合ケアセンター
	障害者福祉施設	リハビリテーションセンター、障害者情報文化センター
	その他福祉施設	福祉パル、総合研修センター
庁舎施設	支所、出張所	麻生区役所柿生分庁舎、多摩区役所生田出張所
	事務所、事業所	公文書館
環境衛生施設	医療施設	休日急患診療所、歯科保健センター
	墓園、葬祭場	かわさき南部斎苑、かわさき北部斎苑
	その他環境衛生施設	動物愛護センター
その他	その他消防施設	消防会館
	防災拠点等	大師河原水防センター

(注1) 市民利用施設とは、本白書の年間利用者数に数値が存在する施設を指します。

(注2) 大分類の「その他」は、「消防施設」、「上下水道施設」、「交通施設」、「防災施設」、「駅周辺施設」を含みます。

# 1 延床面積

## (1) 市民利用施設の中分類別の延床面積

令和5年度時点の市民利用施設の中分類別延床面積を大きい順に並べると以下のような順番になります（中分類の具体的な施設の例については8ページを御参照ください）。

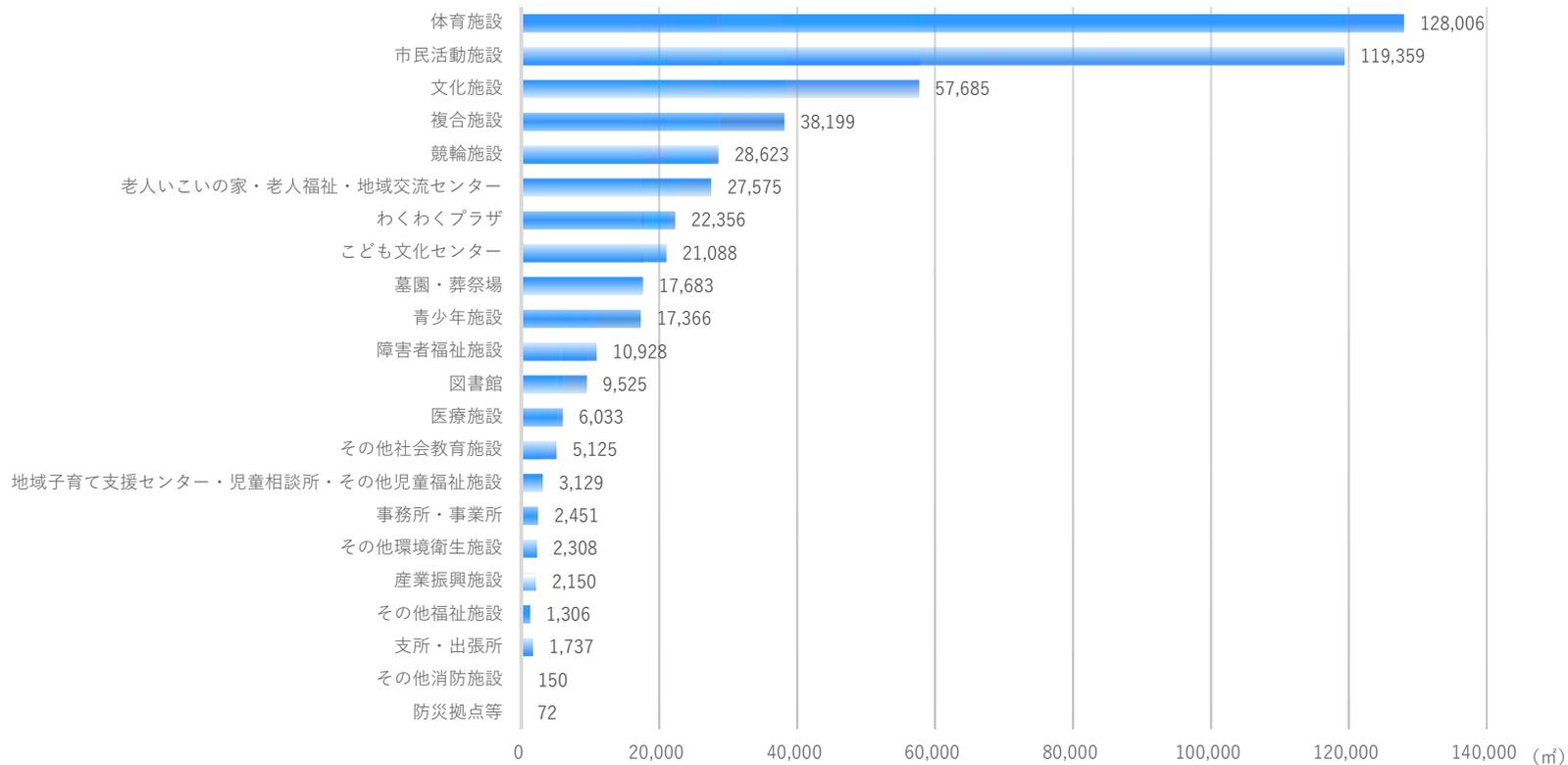


図 6 市民利用施設の中分類別の延床面積

(令和5(2023)年度決算、借受施設及び企業会計除く)

## (2) 延床面積の大きい市民利用施設の過年度比較

市民利用施設のうち、令和5年度時点で中分類別に延床面積の大きい上位3分類を見ると、「市民活動施設」は労働会館が改修工事で休館しているため、床面積が一時的に減少しています。その他については、令和4年度から大きな変化は見られませんでした。（市民活動施設の例：市民館・労働会館・総合福祉センター、体育施設の例：スポーツセンター・球技場・プール、文化施設の例：川崎シンフォニーホール・青少年科学館・藤子・F・不二雄ミュージアム）

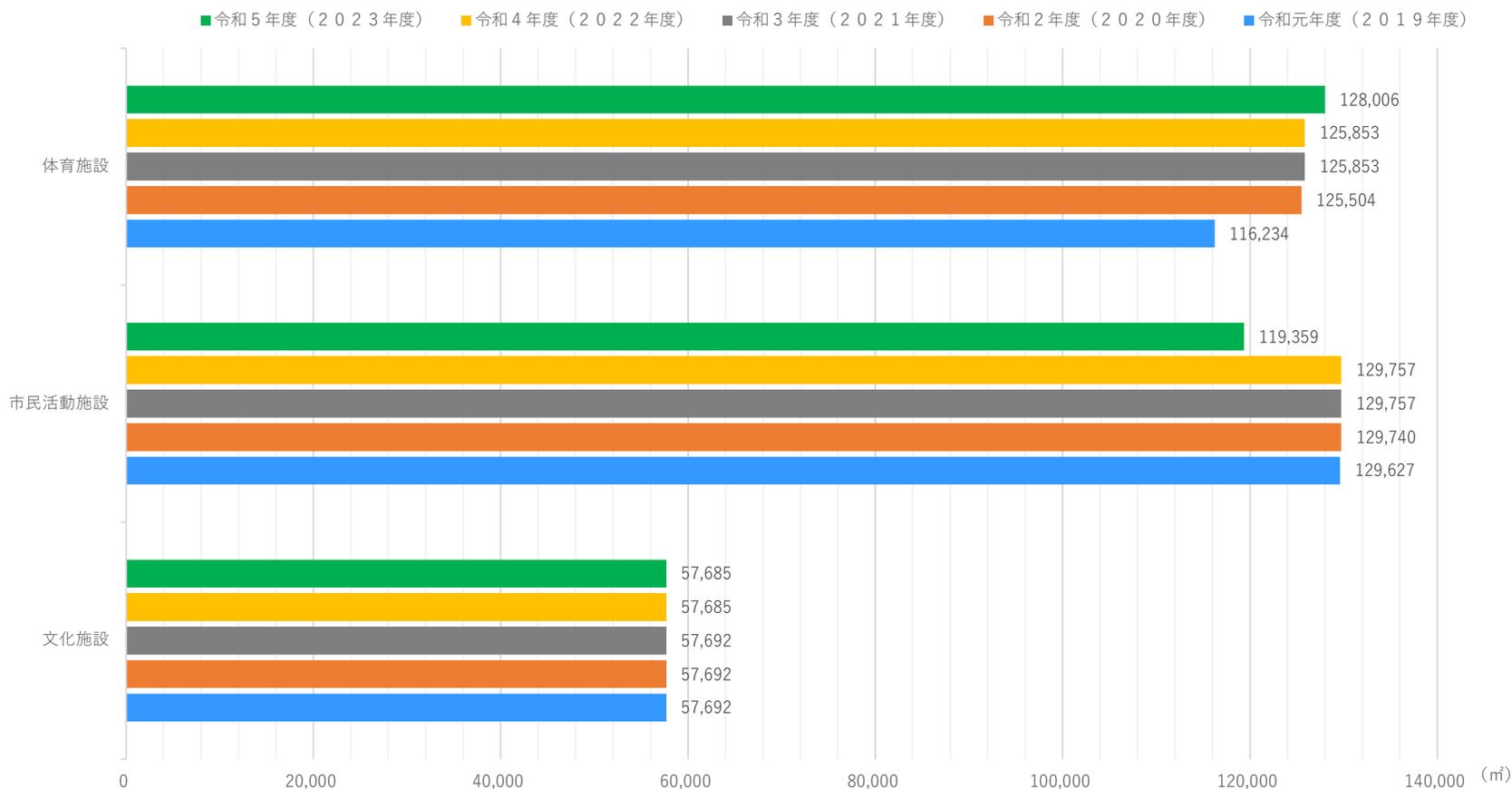


図7 延床面積の大きい市民利用施設の過年度比較（令和5年度延床面積上位3分類を掲載）

（令和元（2019）年～令和5（2023）年度決算、借受施設及び企業会計除く）

### (3) 延床面積の増減が大きい市民利用施設の過年度比較

延床面積の令和4年度と令和5年度の比較により増減の大きい上位3分類を見ると、「市民活動施設」は労働会館が改修工事で休館しているため、一時的に減少しています。「体育施設」については、富士見公園再編整備工事の進捗に伴い増加しています。また、「その他社会教育施設」が橋リサイクルコミュニティセンターの廃止に伴い減少しています。

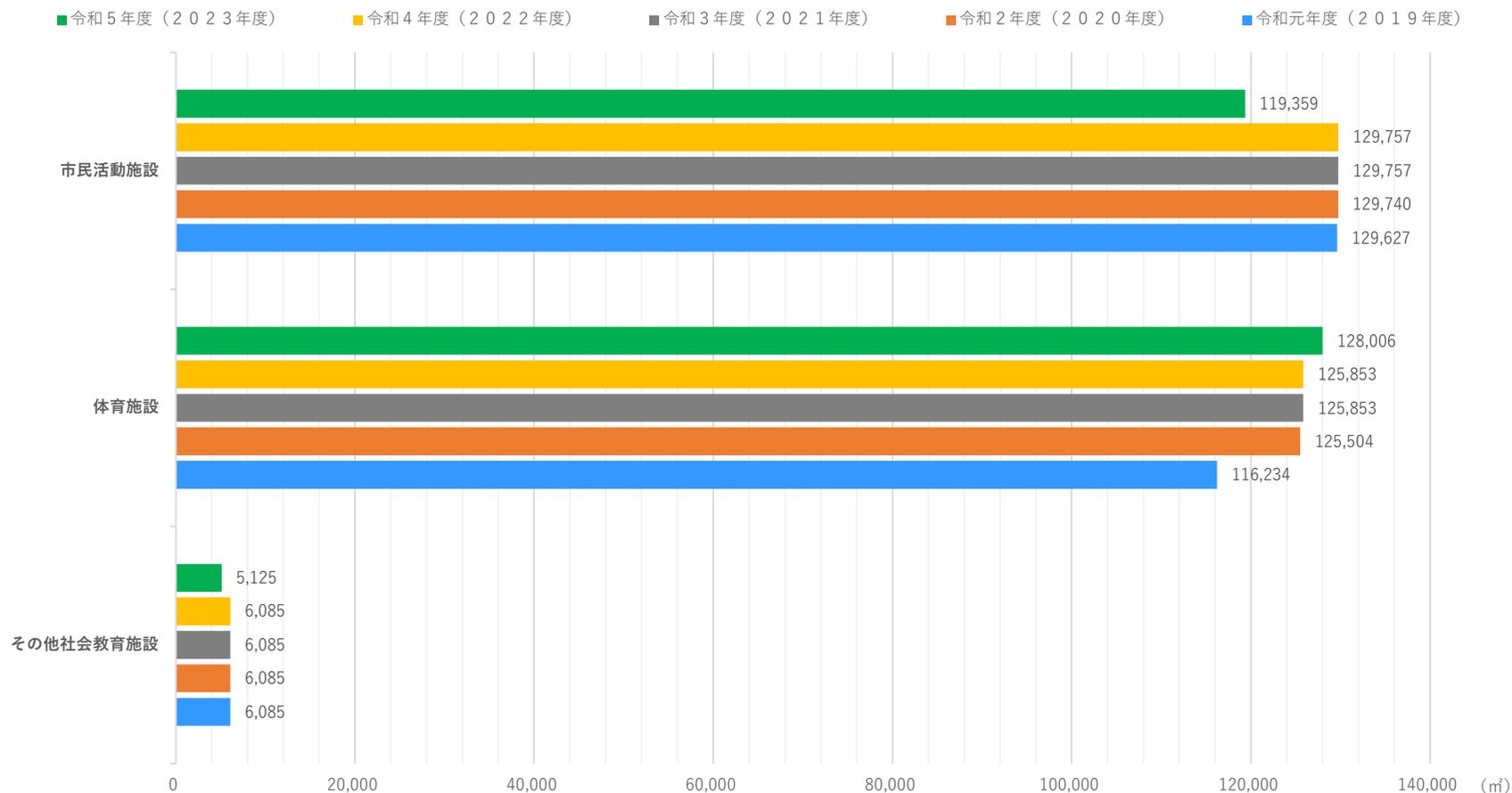


図8 延床面積の増減が大きい市民利用施設の過年度比較 (令和4年度と令和5年度比較による増減上位3位を掲載)

(令和元(2019)年～令和5(2023)年度決算、借受施設及び企業会計除く)

## 2 年間利用者数

### (1) 市民利用施設の中分類別の年間利用者数

令和5年度時点の年間利用者数を中分類別に多い順に並べると以下のような順番になります(中分類の具体的な施設の例については8ページを御参照ください)。

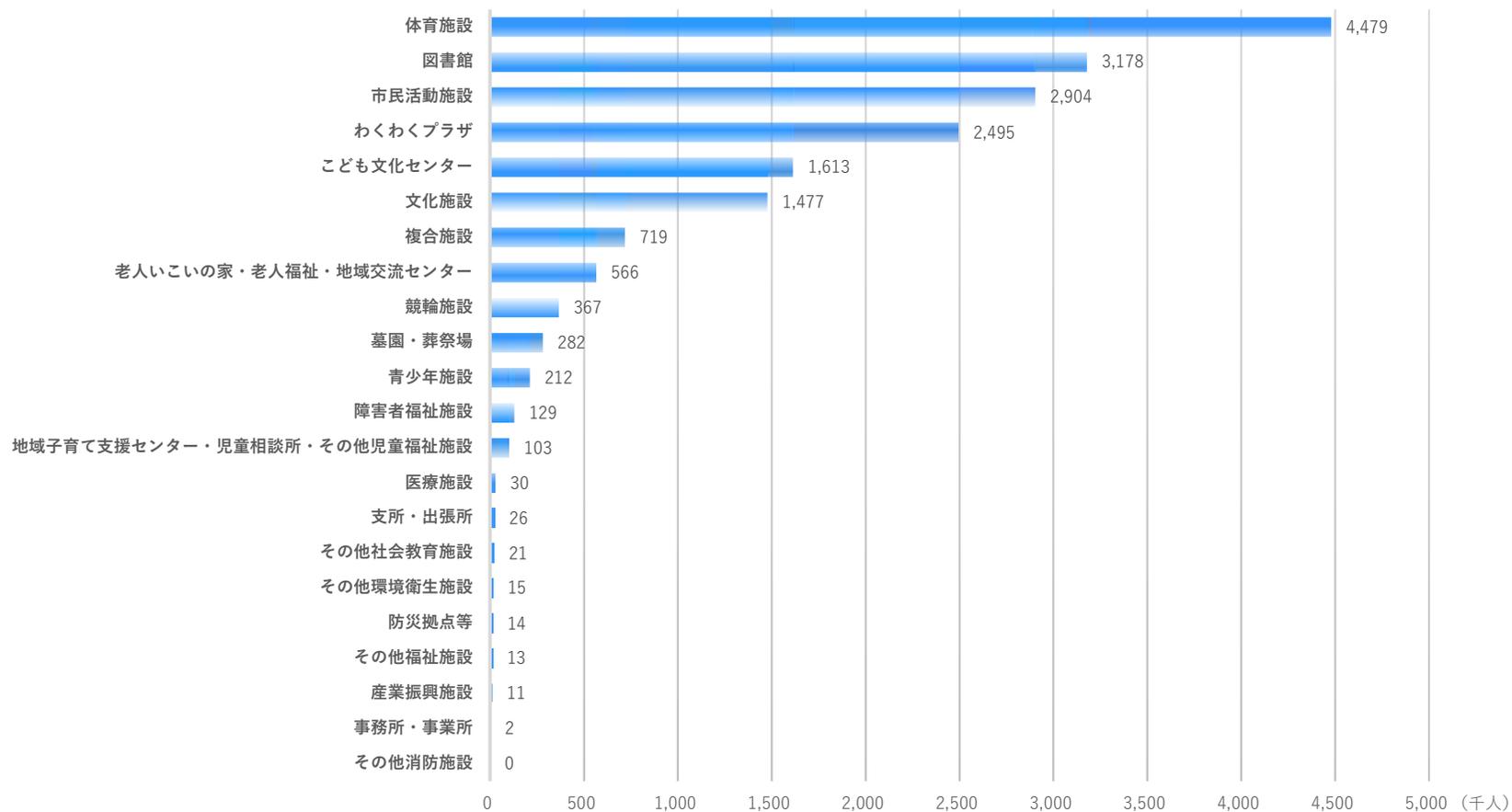


図 9 市民利用施設の中分類別の年間利用者数

(令和5(2023)年度、借受施設及び企業会計除く)

## (2)利用者の多い市民利用施設の過年度比較

令和5年度時点での年間利用者数の多い上位3分類を見ると、「体育施設」が最も多く、続いて「図書館」、「市民活動施設」の順に並んでいます。「図書館」は新型コロナウイルス感染拡大以降、減少が続いていますが、「体育施設」は令和元年度を越え増加しています。令和元年度は「市民活動施設」の利用者が最も多い状況でしたが、令和5年度は「体育施設」の利用者が最も多い状況となっています。

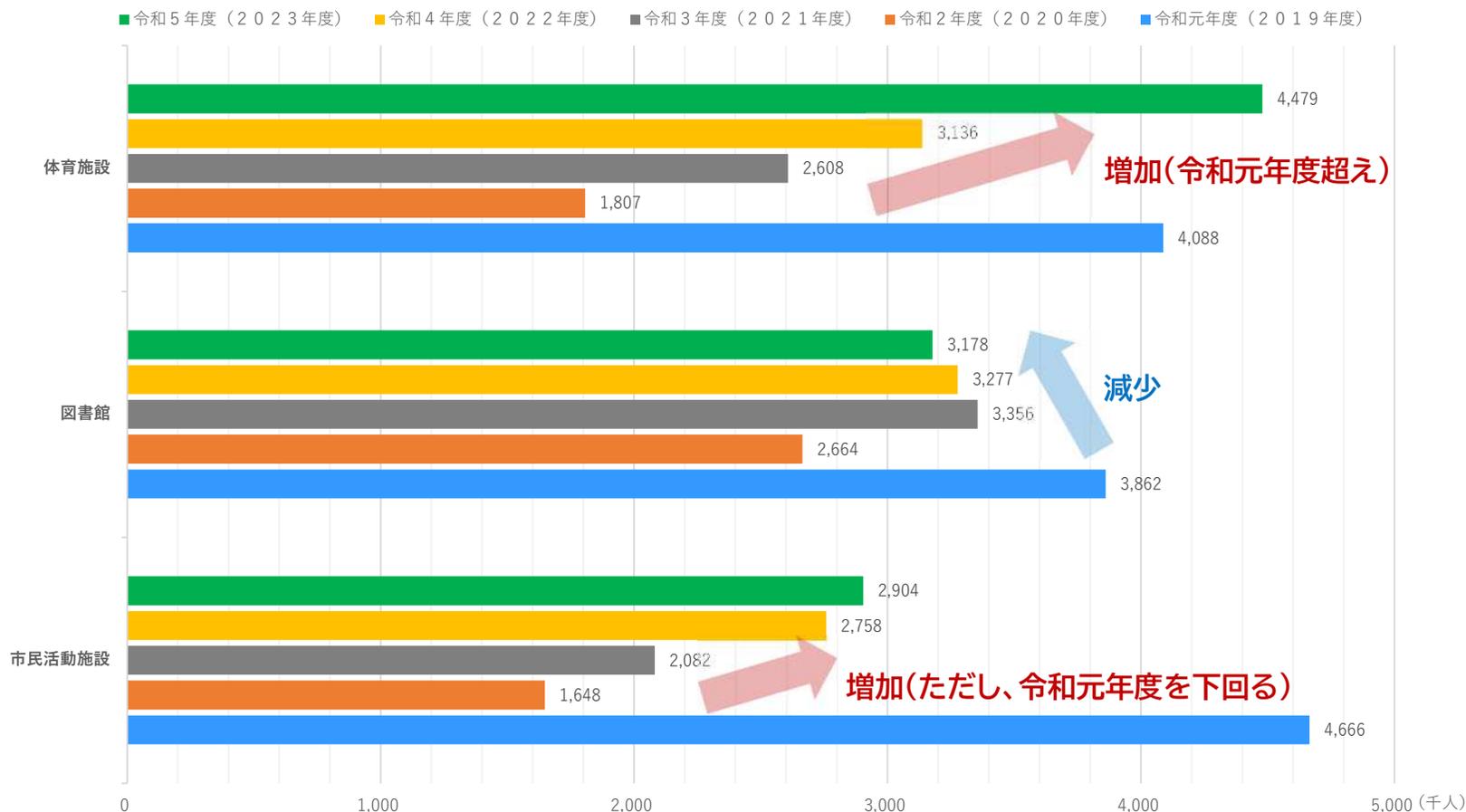


図 10 利用者の多い市民利用施設の過年度比較（令和5年度利用者数上位3位を掲載）

（令和元（2019）年～令和5（2023）年度、借受施設及び企業会計除く）

### (3)利用者数の多い市民利用施設の1㎡あたりの過年度比較

公共建築物には、等々力陸上競技場（約43,957㎡）のような大規模な施設から、大師河原水防センター（約72㎡）のような小規模な施設まで様々な建物があるため、1㎡あたりの年間利用者数の比較を行いました。

令和5年度時点で1㎡あたりの年間利用者数の多い上位3分類を見ると、「図書館」が最も多く、続いて「防災拠点」、「わくわくプラザ」の順に並んでいます。「防災拠点等」は大師河原水防センター（大師河原干潟館）のみが対象となっており、平常時は環境や防災、地域の歴史の学習施設として活用されており一定の利用者がいること及び施設の規模が比較的小さい（約72㎡）ことから、数値が比較的大きくなっています。

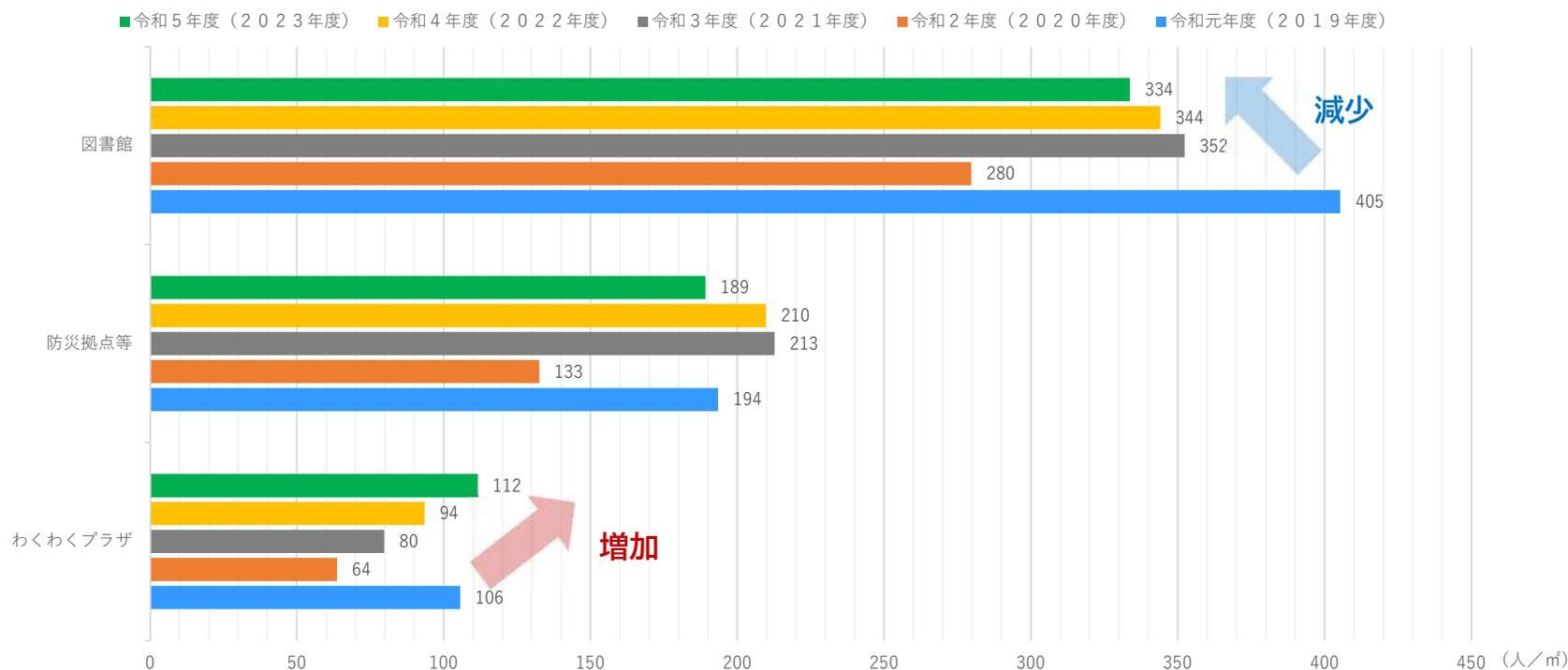


図 11 利用者数の多い市民利用施設の1㎡あたりの過年度比較（令和5年度利用者数上位3位を掲載）

（令和元（2019）年～令和5（2023）年度、借受施設及び企業会計除く）

### 3 コスト状況（1㎡当たりのコスト状況）

#### (1) 市民利用施設の1㎡当たりのコスト状況

令和5年度時点の市民利用施設の1㎡当たりコストを中分類別に高い順に並べると以下のような順番になります（中分類の具体的な施設の例については8ページを御参照ください）。

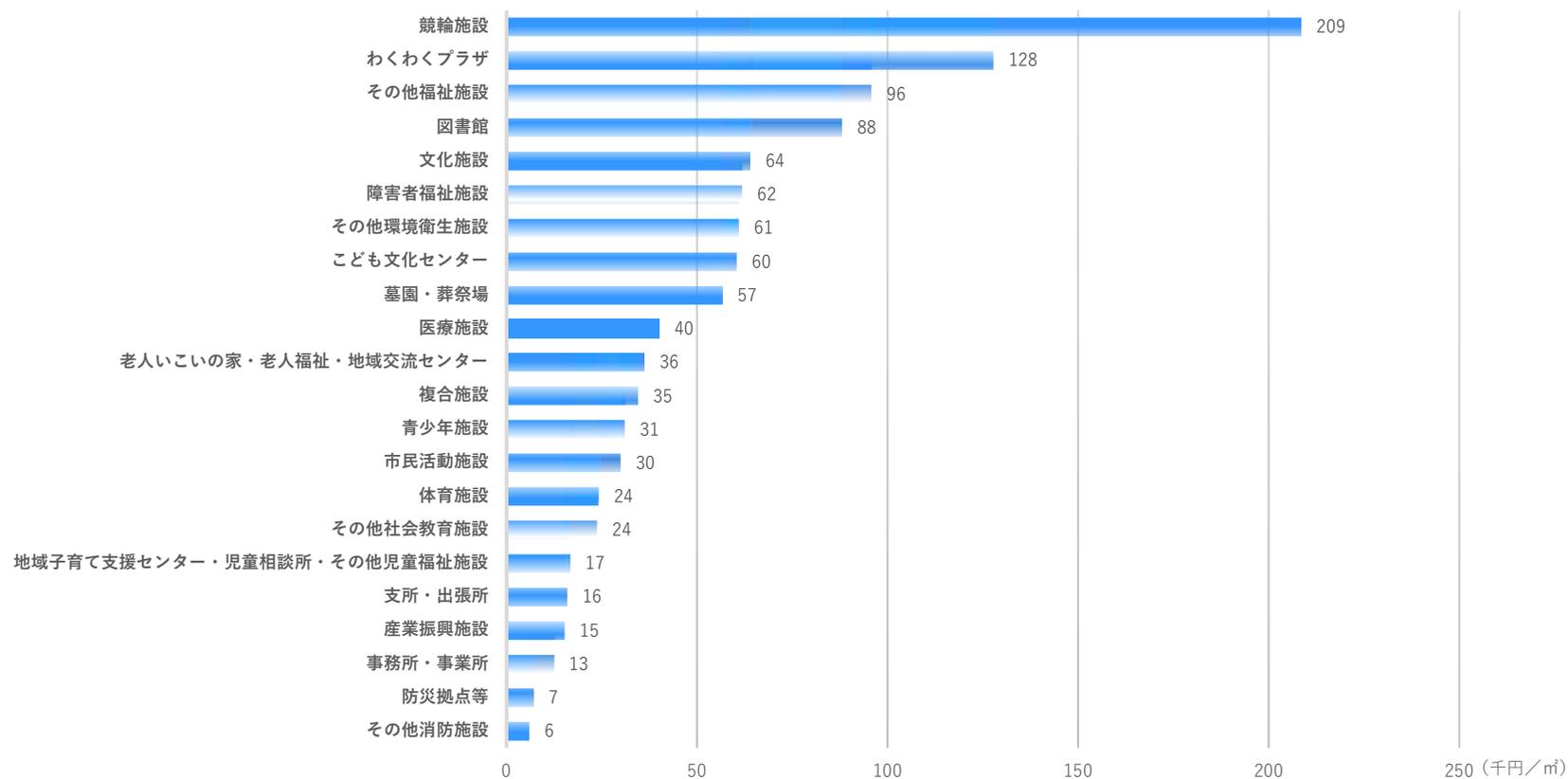


図 12 市民利用施設の1㎡当たりのコスト状況

(令和5(2023)年度決算、借受施設及び企業会計除く)

## (2) 1㎡あたりのコストの高い市民利用施設の過年度比較

令和5年度時点で1㎡あたりコストの高い上位3分類を見ると「競輪施設」が最も高く、続いて「わくわくプラザ」、「その他福祉施設」の順に並んでいます。  
 (その他福祉施設の例：福祉パル・総合研修センター)

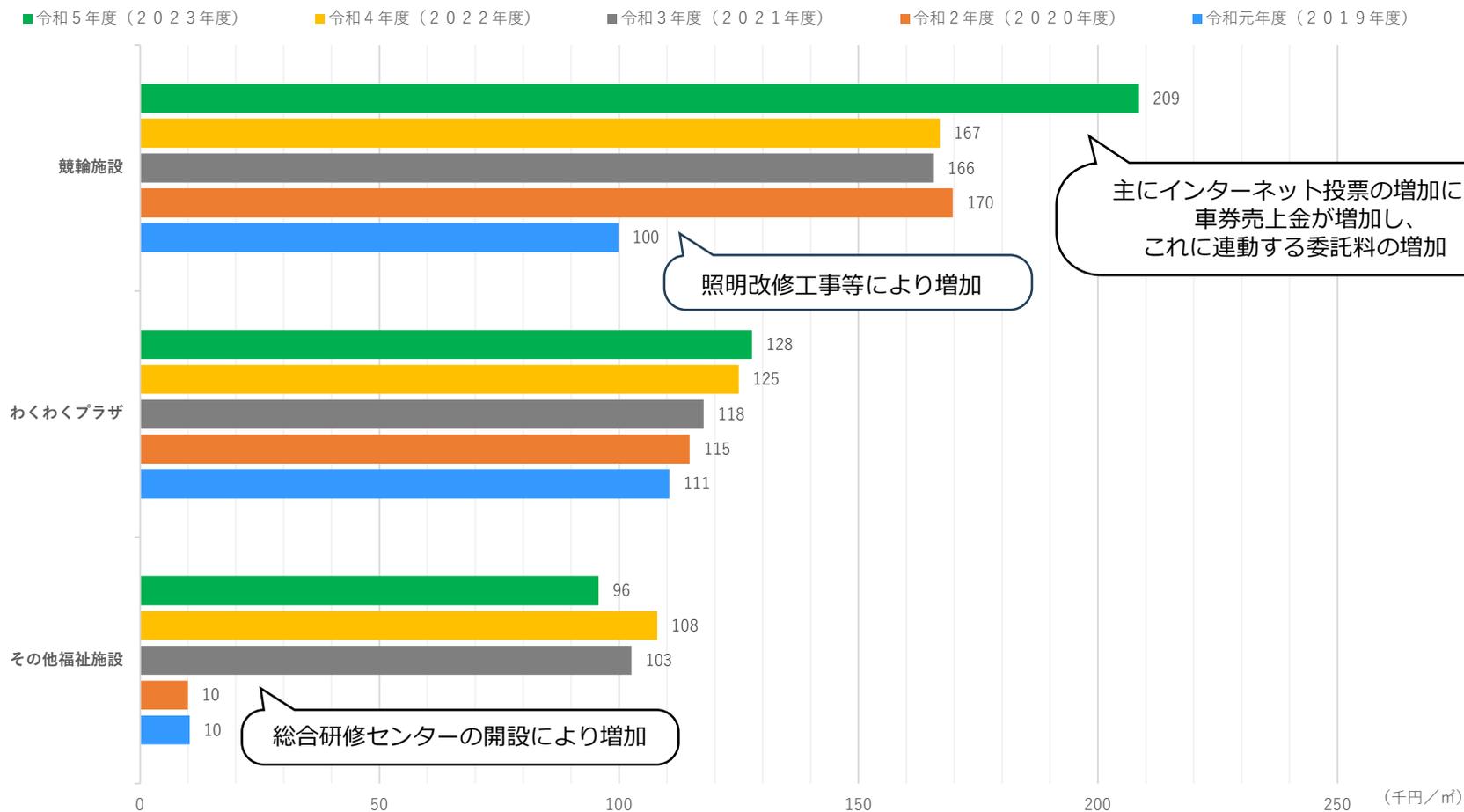


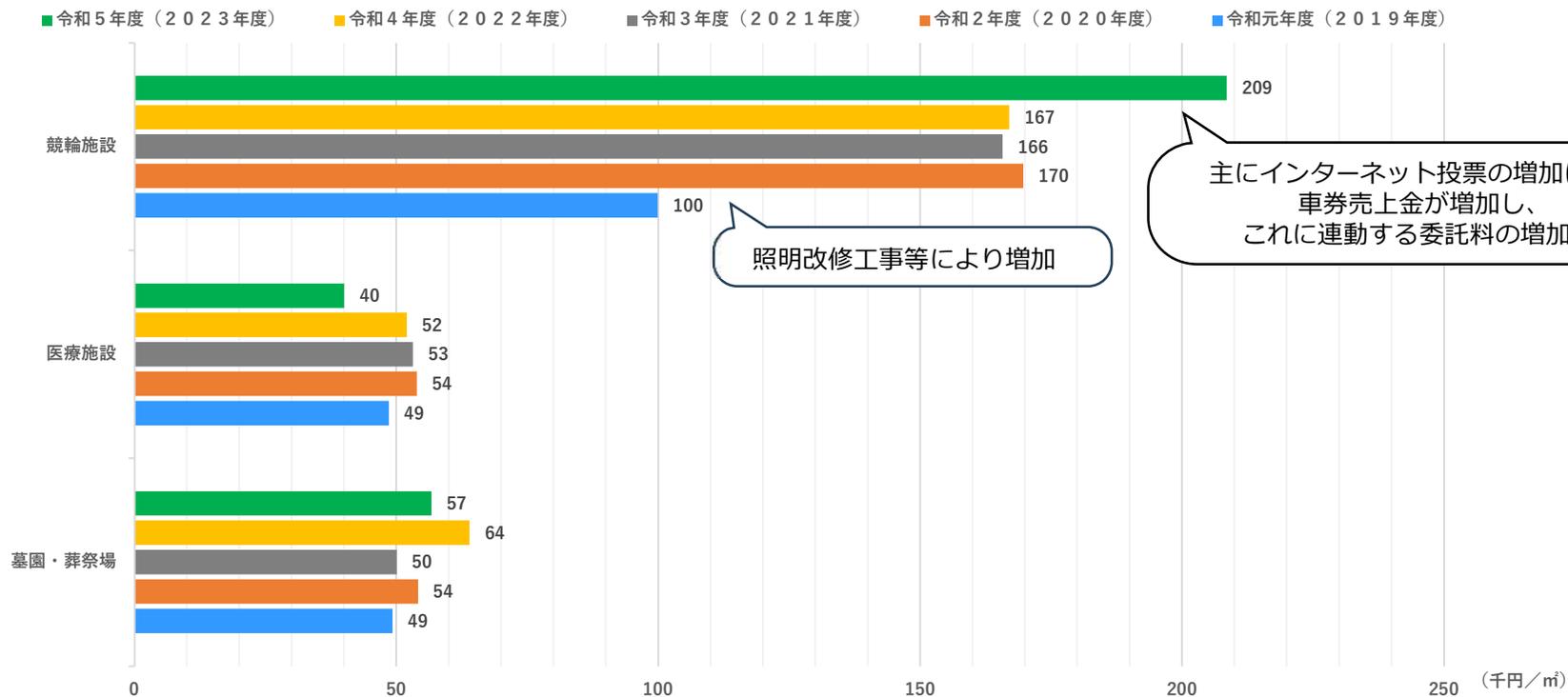
図 13 1㎡あたりのコストの高い市民利用施設の過年度比較（令和5年度金額上位3位を掲載）

(令和元(2019)年～令和5(2023)年度決算、借受施設及び企業会計除く)

### (3) 1㎡あたりのコストの増減が大きい市民利用施設の過年度比較

令和5年度時点で1㎡あたりコストの変動が目立った3つの施設分類は「競輪施設」、「医療施設」、「墓園・葬祭場」があげられます。

※コスト状況については、支出のみの把握になっています。また、競輪施設は特別会計で運営されており、競輪事業の収入で運営費や施設整備などのコストを負担しています。



(注) 解体・新築関連経費、大規模改修費を除く

図 14 1㎡あたりのコストの増減が大きい市民利用施設の過年度比較

(令和4年度・令和5年度比較による増減が大きい3分類を掲載)

(令和元(2019)年～令和5(2023)年度決算、借受施設及び企業会計除く)

川崎市公共施設白書（分析編）

令和5(2023)年度版

第1版 令和8(2026)年2月

(問い合わせ)

川崎市 総務企画局 公共施設総合調整室

TEL 044-200-1226

FAX 044-200-3627

E-mail [17koukyo@city.kawasaki.jp](mailto:17koukyo@city.kawasaki.jp)